



横浜みどりアップ計画市民推進会議

第19回 調査部会

当日資料

令和元年10月18日（金）

8：45～12：00

和泉小学校ビオトープ

古橋市民の森

和泉町水田



横浜みどりアップ計画

お願いと注意事項

- ・体調管理に気を付けて下さい。
もし体調の不良を感じたときは、職員にお声がけください。
- ・現地で歩道なども歩きます。
道路を横断するときなどは、車にご注意ください。
- ・広報に使用するため写真撮影を行います。
広報で使用させていただくこともあります。



『横浜農場』とは、
食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、
横浜らしい農業全体を農場として見立てた言葉です。

本日のテーマと見学先

集合 泉公会堂入口 8時45分



(バス移動)

見学先その1 9時30分～

●小学校で生き物とふれあえる現場

→ 和泉小学校ビオトープ 3ページ

(バス移動)

見学先その2 10時30分～

●まちの森をみんなで育てている現場

→ 古橋市民の森 5ページ

(バス移動)

見学先その2 (車窓より) 11時30分～

●まちの水田を守っている現場

→ 和泉町の水田 7ページ

(バス移動)

解散 湘南台駅 11時50分

横浜みどりアップ計画の体系

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



施策1
樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

施策2
良好な森を育成する取組の推進

事業② 良好な森の育成

事業③ 森を育む人材の育成

施策3
森と市民とをつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



施策1
農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

事業② 農とふれあう場づくり

施策2
地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



施策1
市民が実感できる緑をつくり、
育む取組の推進

事業① まちなかでの緑の創出・育成

施策2
緑や花に親しむ取組の推進

事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

効果的な広報の展開



事業① 市民の理解を広げる広報の展開

和泉小学校ビオトープ（学校での緑の創出・育成）

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

施策2 緑や花に親しむ取組の推進

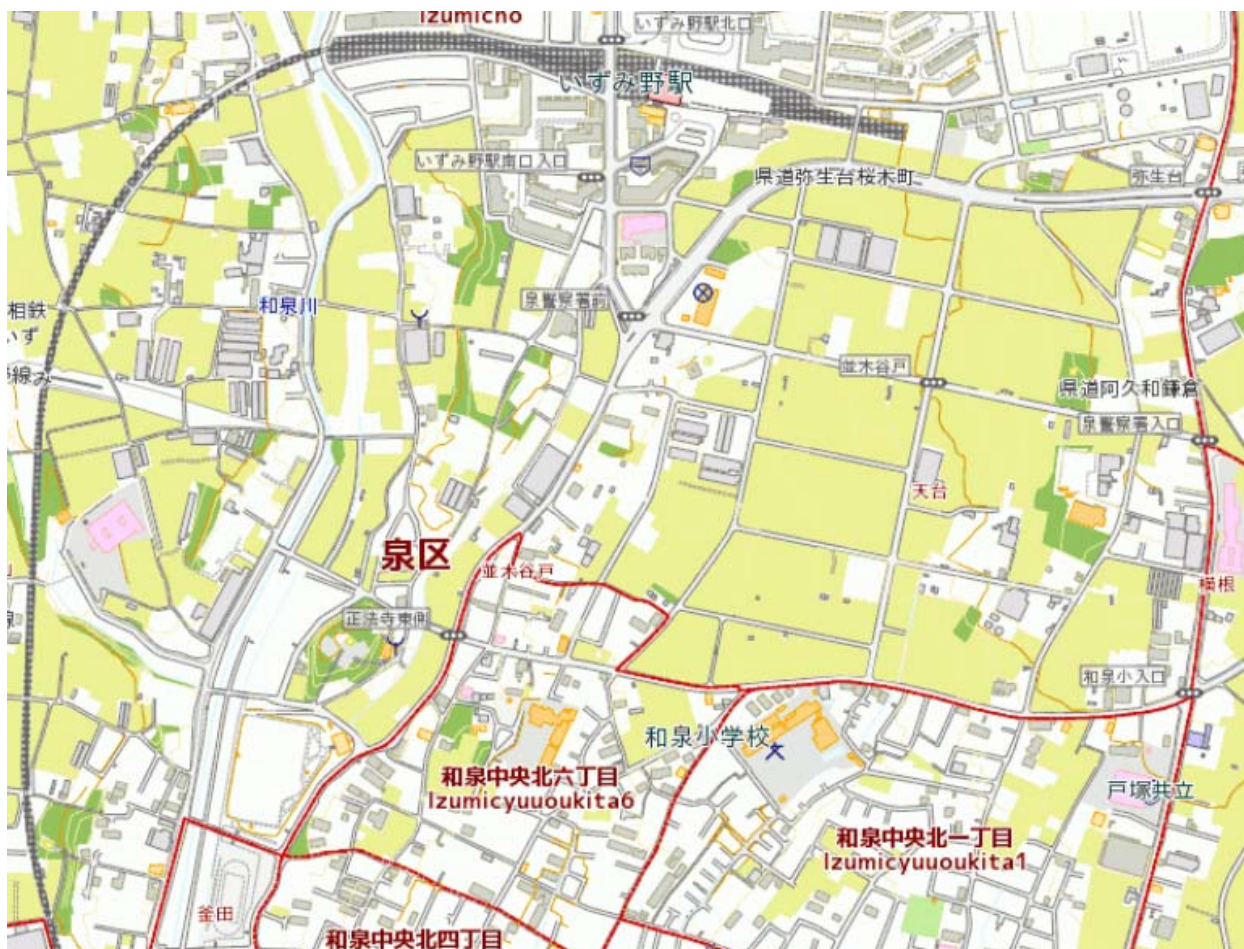
事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成



● 子どもを育む空間に、生き物とふれあい学べるビオトープをつくりました！

横浜市では、次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多く時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めています。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組んでいます。

そこで、この事業で整備した「和泉小学校のビオトープ」を訪ねてみます！



<資料：みどりアップQ vol.13 2018.9 より一部抜粋>

● 30年前のビオトープを学校のシンボルに！

泉区の和泉小学校には子どもたちが集まる池があります。この池は、おととしまで雑草が生い茂るなど荒廃した場所となっていました。ここに命を吹き込み「自然いっぱいニコニコ池」にする！現在の5年生が中心となり、池の再生に挑戦しました。

「ビオトープへと再生するためにはお金が必要。役所の人に相談してみよう！」

子どもたちがこんな池にしたいという想いを横浜市環境創造局みどりアップ推進課の職員にプレゼンした結果、みどりアップ計画事業の趣旨に合った内容として、整備費の支援がされることになりました。また、池の整備を行う施工業者の方と給食を一緒に食べたり、地域の方とも顔の見える関係をつくりながら整備を行いました。



一方で、今後どのように維持管理を継続していくかという課題は残ります。このビオトープが授業で活用され、学校のシンボルとして学校、地域、企業、行政など多種多様な人がかかわり、集まれる場となっていくことを期待しています。

「みどりアップQ」について



平成26年度から30年度までの横浜みどりアップ計画市民推進会議では、「緑×まち×未来を考えよう」をテーマに、横浜みどりアップ計画市民推進会議広報誌「みどりアップQ」を発行し、横浜の緑と、市民の皆さんの活動などをご紹介します。

横浜のみどりと、そこに関わる人たちの、これまでの経験や想いを知り、一緒に課題を考えることで、より良いみどり政策のための提言に生かしてきました。

和泉小学校の取組は「みどりアップQ13号」でご紹介しています！



まちの森をみんなで育てている現場 古橋市民の森（市民の森）



- 計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む
- 施策1 樹林地の確実な保全の推進
- 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取
+
- 施策2 良好な森を育成する取組の推進
- 事業② 良好な森の育成
- 事業③ 森を育む人材の育成

● 樹林地を保全し、良好な森を育成しています！

- 事業① 市内に残る樹林地の多くは民有地です。土地所有者が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度に基づく指定により、税の軽減や維持管理の面から支援を行っています。また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れにも対応しています。
- 事業② 愛護会や森づくりボランティア等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めています。
- 事業③ 森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てており、さらに、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行っています。

● 今年の4月にオープン！森林浴を楽しめる古橋市民の森！



見学先②古橋市民の森

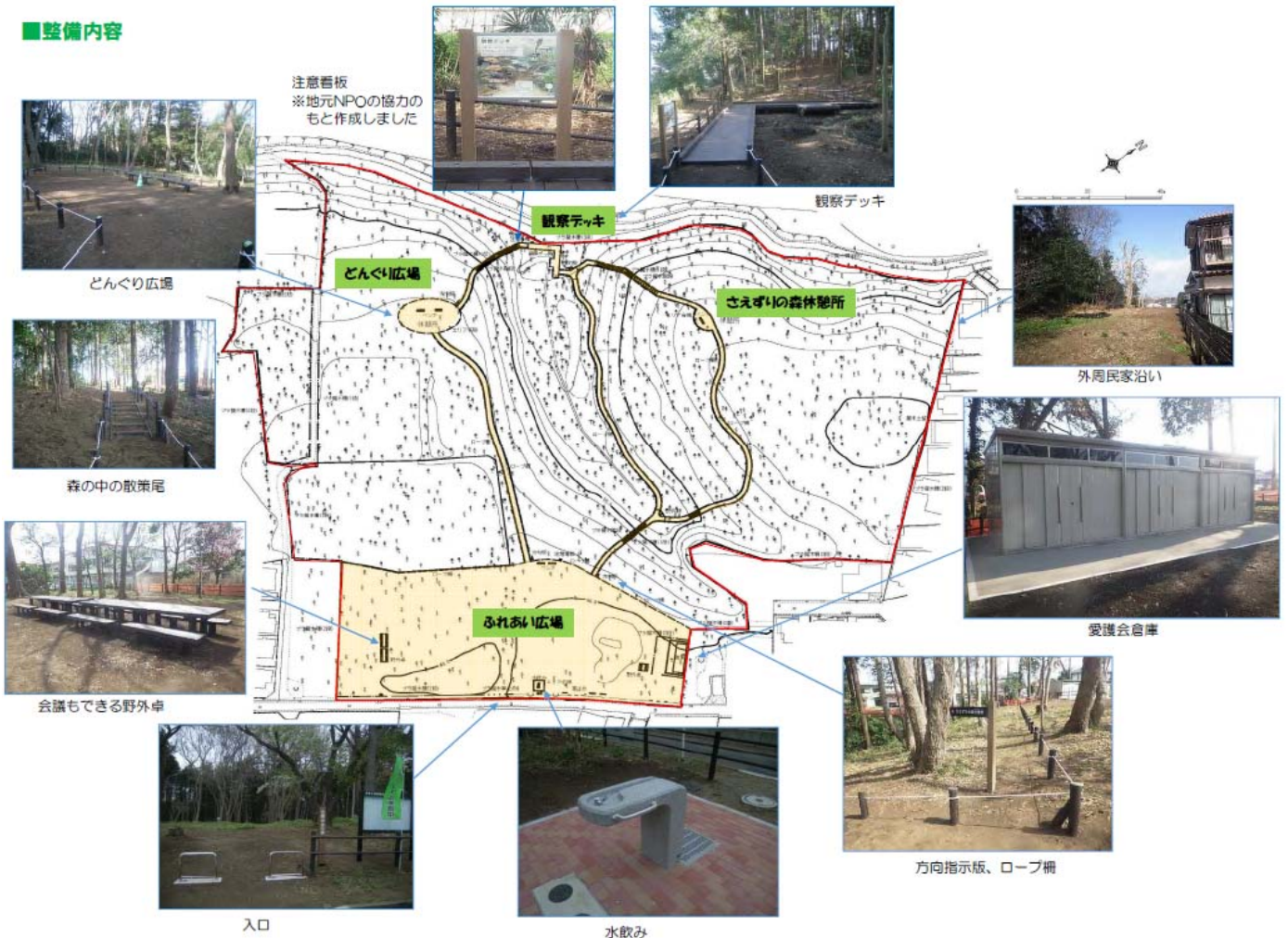
● 「野鳥がさえずり、泉湧く、子どもも大人もみんなが集うふれあいの森」

古橋市民の森（約2ha）は、「野鳥がさえずり、泉湧く、子どもも大人もみんなが集うふれあいの森」を将来像とし、平成31年度4月にオープンしました。

平成13年度に「和泉の森を育む会」が発足し、管理面積6480㎡からスタート。苦勞を積み重ね、「輝く森」となりました。

この森が良好に保全・維持管理できるよう、和泉の森を育む会が月1回、巡回やパトロールを行い、ペットボトルや菓子袋などのごみの回収、通路の草刈り等の管理を行っています。

■ 整備内容



● 「会の特徴・セールスポイント」！

- (1) 森が地域市民の憩いの場として定着、コミュニティの核へ
- (2) 森を訪れた方々に、季節の山野草や森林浴を提供
- (3) 地域と一体化した活動・交流や高齢者への思いやりがやさしい町づくりに
- (4) 自然観察会、小学生向け環境学習支援
- (5) 高齢者宅の庭木剪定や庭整備活動、福祉施設支援・交流
- (6) 竹林の整備と竹材利用
- (7) 会報「古橋の森だより」の発行



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

● 大都市に残る貴重な水田を保全しています！

横浜市では、農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組等を支援しています。農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業が作り出す「農」の景観は多様です。

水田の継続的な保全については、土地所有者が水田を維持し、水田景観の保全や多様な機能が発揮できるよう、水稻の作付を10年間継続することを条件に奨励金を交付し、貴重な水田を保全するための支援を行っています。

● 和泉町南部の水田地帯



- みどリアップ計画の取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開しています！

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む
 森（樹林地）の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる
 良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる
 街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

効果的な
広報の
展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

具体的な取組

- ・広報よこはま等の広報紙への記事掲載
- ・実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧
- ・広告、動画等の各種メディアを活用したPR
- ・ホームページの充実
- ・メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信
- ・緑に関するイベントでのPR
- ・取組に基づいて実施したことを示す現地掲示(プレート)



対象に応じた広報

年代や属性、認知度、緑の活動への参加の程度をもとに、主な対象を設定し、対象に応じて多様な媒体を活用します。

主要な対象と媒体の組合せイメージ

非認知層(20代～30代)
 テーマ: 認知度の向上
 媒体: ウェブサイト
 ソーシャルメディア(SNS)

認知層(50～70代)
 テーマ: 計画への参画と、広がり
 媒体: 実績リーフレット回覧
 広報よこはま

ファミリー層(20～40代)
 テーマ: 家族と楽しみながら緑を
 身近に感じる
 媒体: 広報よこはま
 イベント

若年層(学生)(10代～30代)
 テーマ: 緑の役割や取組の学び
 媒体: イベント
 教育機関との連携

市民全般、首都圏
 テーマ: シティプロモーション
 媒体: PR動画の活用
 ウェブサイト



多様な媒体を活用

横浜みどリアップ計画のマスコットキャラクター

横浜みどリアップ **葉っぴー** について

プロフィール

生まれたところ	横浜の森で目覚めた
何者？	森の妖精
年齢	妖精なのでわからない
誕生日	6月20日(緑の環境をつくり育てる条例の施行日)
体重	88g (葉っぱだけに)
身長	64cm (8×8=64なので) (妖精なので、身長体重は自在に変えることができる。)
性格	普段は天真爛漫で明るいが、水がなくなると元気がなくなる
好きなこと	日向ぼっこ(光合成)
チャームポイント	葉脈
特技	魔法の花で緑を増やす
仲間	色々な生き物と友達 (虫と友達なので、毛虫や青虫にも食べられない)



ご参加ありがとうございました！

